

アウトブレイクとウイルス検疫の違いは何ですか。

目次

AsyncOS 検疫は削除することができない 2 つの組み込み検疫が含まれています: 発生およびウイルス。

発生検疫はウイルス発生フィルターによってだけ有効な場合使用されます (。)

Cisco E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) の設定されたウイルス脅威水平なしきい値に会うか、または超過するメッセージは発生検疫で渡されるかわりに保持されます。メッセージは検疫マネージャの裁量で発生検疫からリリースされるか、または削除することができます。メッセージはまたこれらの制限が達する場合設定された 時間かサイズ制限が超過する、削除またはリリースへの検疫のデフォルトポリシー設定と処理されます場合検疫を去り。

アウトブレイク隔離から解放されたメッセージは、ウイルス対策モジュールにより再度スキャンされ、ウイルス対策ポリシーに基づいてアクションが実行されます。このポリシーに基づき、メッセージの配信、削除、またはウイルスに感染した添付ファイルを削除した状態での配信のいずれかの処理が行われます。アウトブレイク隔離からの解放後の再スキャン中に、ウイルスが検出されることがよくあります。ESA mail_logs ファイルかメッセージ トラッキングは参照することができますであるとウイルスそれどのように渡されたか注意された検疫で個々のメッセージ見つけれたかどうか確認するために、そして。

ウイルス検疫は Sophos がウイルス感染したように、暗号化されてまたは非スキャン可能分類するメッセージを受け取って利用できます。これらのケースのそれぞれでメッセージはウイルスまたは可能性としてはウイルスです。ウイルス検疫に送られたメッセージは検疫マネージャそれらをリリースするか、または削除することを選択するまたは設定されたサイズはまたは検疫の制限時間は達しますまでそこに残ります。検疫制限が達するときデフォルト アクションは設定可能です。

検疫からリリースされるメッセージはアンチウイルス モジュールによって再スキャンしません; ただし ESA でロードされるウイルス IDE の現在のセットに従ってウイルスだったかどうか、検疫で確認するために検疫マネージャは個々のメッセージをスキャンできるが。

注：新しいウイルスは検疫されますが、新しいもののために場所を空けるために検疫の以前のメッセージはフラッシュされます。これは「先入れ先出し」ポリシーです。ただし、以前のメッセージの開封は検疫がどのように設定されるかメッセージが時期早尚に削除されるか、または時期早尚にリリースされることを意味する、基づいています。

組み込み検疫が削除することができないが割り当てられるそれらへの空き容量は再構成することができます。検疫のために利用可能な空き容量は ESA モデルによって変わり、GUI の Monitor->Quarantines->Manage 検疫ページに表示されます。検疫のための最小サイズは 250MB です。検疫アクティビティの突然増加が ESA のメール キューに影響を与え、正常なメッセージ デリバリーに影響を与える場合がないこと検疫への固定上限を持っていて保証します。